

タマリハ 言語聴覚学科外部講師 天野カオリ先生に聞いてみよう!

タマリハ新聞

番外編
発行所
多摩リハビリテーション学院
専門学校

神奈川歯科大学解剖学分野長です!



解剖学分野の分野長として、歯学部学生の全身解剖学講義と人体解剖実習を担当しています。また通年30校を超えるコメディカル大学・学部学科の学生さんに解剖遺体の見学指導を行っています。また多摩リハビリテーション学院専門学校（以下タマリハ）では、音声言語聴覚医学（神経系）を担当しています。言語聴覚士国家試験では、この領域の問題が他コメディカル領域国家試験と比較して群を抜いて難しいので、やりがいがあります。講義内容のブラッシュアップは毎年欠かしません。

歯科医師からみた言語聴覚士の魅力

解剖学分野の分野長として、覚士の先生にもお世話になりました。半年ほど全く話そうとしなかった父が訓練の結果、普通に会話ができるまでに回復し、この仕事について大変興味を持ちました。

その後偶然にもタマリハのご縁があり、講義を担当させていただく運びとなりました。言語聴覚学科の先生方とはもう17年くらいのお付き合いになります。タマリハの言語聴覚学科は教員のチームワークが整っていて、教育体制のバランスが素晴らしいです。また言語聴覚士は、今後人口を増やすべき職種の一つだと思います。なにより解剖学の知識だけでも歯学部とほぼ同量の領域がありますし、国家試験問題の難易度が、高いのも驚きますが、高い医学専門知識を持つプロフェッショナルとして、もっと活躍する職場が増えて欲しい職種でもあります。

天野先生の授業は?



タマリハでの天野先生の授業の様子を、学生の生の声を集めてみました!

「授業内容を理解できているかどうか当てられるので緊張感がある。」
「板書が中心で集中力が持続しやすい。」
「骨格標本などを使いながら授業を進めてくれるので、立体的な構造をイメージしやすい。」
「解剖学の授業内容と関連して話しを進めてくれるため、解剖の復習もできて理解が深まった。」
「ウエルニツケ失語、ブローカ失語のメカニズムを説明され、想像しながら理解できた。」
「とにかく面白い!」

「豪快かつ快活な印象」

編集担当者の私が天野先生と初めてお会いしたのは、コロナ禍で遠隔授業のサポートをさせて頂いた頃です。第一印象は「豪快・快活」で思い切り「ガハハ!」と笑う笑顔が印象的でした。学生の声を載せながら「ああ、やっぱり楽しい授業をして

編集後記

「すごく貴重な資料をわかりやすく提示してくれる。」
「性格がカラッとしていてサバサバしていて、授業も面白いからクラスみんな先生を好き。」
「板書は多いけど、板書だけでなく骨格標本なども用意してくれて、実物にも触ることができるので、とってもわかりやすい。」
「他の授業で疑問を思っていたことも、天野先生の授業でスッと理解できる。」
「板書の内容がまとまっているので、自分のノートを見てもわかりやすい。」

多摩リハビリテーション学院専門学校

作業療法学科・理学療法学科（高卒3年課程）

言語聴覚学科（大卒2年課程） 介護福祉学科（高卒2年課程）

〒198-0004 東京都青梅市根ヶ布 1-642-1 TEL. (0428)-21-2001 FAX. (0428)-21-2410

